

令和 2 年 9 月 9 日現在

機関番号：35402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K16754

研究課題名（和文）与路島・請島を中心とした奄美大島方言の記述的研究

研究課題名（英文）Descriptive research of Amami-Oshima dialects: with a focus on Yorojima and Ukejima

研究代表者

重野 裕美 (SHIGENO, Hiromi)

広島経済大学・教養教育部・准教授

研究者番号：70621605

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：与路島・請島を中心とした奄美大島方言内（奄美大島の奄美市佐仁集落・龍郷町浦集落・大和村今里集落、加計呂麻島の瀬戸内町芝集落、請島の瀬戸内町池地集落・請阿室集落、与路島の瀬戸内町与路集落）の7つの集落の方言を対象に、自然談話、童謡の方言訳などの一次資料の収録と、基礎語彙調査を基にした音声・音韻、格助詞、動詞の活用、敬語等における方言差を明らかにするための質問調査を行った。特に、格助詞と尊敬動詞の意志勧誘形の特徴について詳細に記述した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、奄美大島諸方言の談話資料を収集した点、また、その方言差について明らかにした点で今後の奄美大島諸方言の研究を促進するものとなる。特に、目的格や敬語の実際の運用についての研究においては、管見の限り他の日琉の諸地域変種に見られない特徴が明らかとなっている。この点で本研究は一般言語学的な研究に資するものといえる。

研究成果の概要（英文）：I conducted field research on Amami-Oshima dialects spoken in six villages on Amami-Oshima island and surrounding islands (Sani, Ura, and Imazato villages on Amami-Oshima island, Ukeamuro and Ikeji villages on Uke island, and Yoro village on Yoro island). I recorded basic vocabulary, natural discourse in the dialects, and nursery songs translated from Standard Japanese into the dialects. I also collected data on case particles, verbal inflection, and honorific expressions by elicitation. I provided detailed descriptions about the characteristics of the object case particle and the hortative form of honorific verbs in particular.

研究分野：記述言語学、琉球語研究

キーワード：記述言語学 琉球諸語 奄美方言 敬語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

琉球列島で話される伝統的な方言は、本土方言との語彙・音声音韻・形態統語に渡る差異と、相互理解性の欠如から複数の言語が認められ、その多様性から、共時的理論研究の観点からも、日本語との比較歴史言語学的観点からも研究者の強い関心が寄せられている。一方、共通語への言語推移により伝統方言の母語話者は概ね老年層に限定され、2009年にユネスコにより消滅の危機に瀕した言語に認定されている。今後の琉球諸語研究の継続・発展及び言語継承の推進を担保するためには、自然談話・語彙・文法の資料収集とアーカイブ化が必要であるが、現時点では特に自然談話資料が少なく、また、語彙・文法の資料も特定の地点に限られている。資料媒体がテキストに偏り、音声・映像の資料が少ないという点も課題である。

2. 研究の目的

本研究は、与路島・請島を中心とした北琉球奄美大島方言の体系的記述、若年層への継承活動、敬語体系の運用実態の比較を行うものであり、具体的には以下の3点を目的とした。

(i) 与路島・請島を主な対象としながら消滅の危機に瀕する奄美大島方言の語彙や談話を記録し、類型論的な視点に基づいた文法記述書を作成・出版する。

(ii) 同地点を中心とし、地域コミュニティによる教育活動や言語維持、言語の再活性化の活動に資することができる一般向けの解説書や音声・映像を含む方言教材の作成、方言指導者の育成を行う。

(iii) 上記の(i)(ii)と並行して、敬語体系に重点をおいた調査・研究を他の琉球諸語地域でも行い、その結果を申請者のこれまでの研究成果と照合することで、琉球諸語敬語法及び日本語敬語法における奄美方言敬語法の位置付けを再検討する。

3. 研究の方法

奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島内の7つの集落(奄美大島の佐仁集落・浦集落・今里集落、加計呂麻島の芝集落、請島の池地集落・請阿室集落、与路島の与路集落)の方言を対象に、70~90代の話者計16名を調査協力者として、自然会話、童謡の方言訳の一次資料の収録と、基礎語彙、格標識、動詞の活用、敬語法を明らかにするための質問調査を行った。

調査対象地域の詳細は以下のとおりである。



図1：琉球諸語圏、奄美方言圏、奄美大島方言圏



図2：調査対象地域

調査対象者の詳細は以下のとおりである。

表 1：調査対象地域・調査対象者（各市町村 HP 参照：2019 年 3 月～2020 年 6 月）

方言区画	島名	市町村名	集落名	世帯数	人数	性・年齢・人数
北大島	奄美大島	奄美市 笠利町	佐仁	161	250	70代・男性・1名 70代・女性・1名
		龍郷町	浦	359	591	90代・女性・1名 80代・男性・1名 80代・女性・2名
		大和村	今里	58	94	80代・女性・1名
南大島	加計呂麻島	瀬戸内町	芝	48	66	90代・女性・1名 80代・女性・1名
	請島		池地	35	52	90代・男性・1名 90代・女性・1名
			請阿室	29	40	90代・男性・1名 70代・男性・1名
	与路島		与路	48	77	90代・男性・1名 90代・女性・1名 80代・男性・1名

4．研究成果

格標識に関しては浦方言と与路方言、動詞の活用に関しては佐仁方言と請阿室方言、敬語法に関しては佐仁方言、浦方言、今里方言、芝方言、請阿室方言、与路方言についてのデータを示す。

4.1．格標識

格標識の体系については、浦方言と与路方言を対象に調査を実施した。詳細は以下のとおりである。浦方言のデータは重野（2016：162）、与路方言のデータは重野（2017：90）を参考にする。

表 2：浦方言の格標識

格	形式
主格 1	=ga/ka
主格 2	=nu
属格 1	=nu/n
属格 2	=ka
対格	=ba
与格	=nji
処格 1	=nan
処格 2	=nantĩ
処格 3	=ji
処格 4	=nanji
具格	=shi
方向格	=chi
奪格	=ra/raga
限界格	=garĩ
共格	=tu
比較格	=kuma/nkuma

表 3：与路方言の格標識

格	形式
主格 1	=ga
主格 2	=nu
属格 1	=nu
属格 2	=ga
対格	=φ
与格	=n
具格	=shi
共格	=tu
処格 1	=nan
処格 2	=nantĩ
方向格	=kach
奪格	=kara
限界格	=gadĩ
比較格	=ikuma

4.2．動詞の活用

動詞の活用については、佐仁方言と請阿室方言を対象に調査を実施した。詳細は以下のとおりである。佐仁方言のデータは白田・重野（2019：6）、請阿室方言のデータは白田・重野（2020：10）を引用する。

佐仁方言は規則動詞として 4 タイプ、28 クラスの動詞を認め、語幹として A～E の 5 つを認める。A 語幹が分かれば、B/C/D 語幹は一意に決まるが、E 語幹は決まらない場合がある。このため、A 語幹と E 語幹が異なる場合、動詞クラスの名前は「A 語幹末/E 語幹末」とする。

表 4 に、佐仁方言の動詞のタイプ・クラスの一覧を示す。A～E 語幹にはクラスに共通する部分のみを示し、それ以外の部分を X とする。母音は V で代表させて示す。V_iV_i は同母音連続（音声上の長母音）である。語例が得られていない部分は「—」で示している。

表4：佐仁方言の動詞活用のタイプ・クラス一覧

タイプ	クラス	A	B	C	D	E	語幹異同	語例 (A 語幹・意味)
I	b/d	Xb-				Xd-	ABCD/E	tub-「飛ぶ」、 tamb-「頼む」
	w/t	Xw-	X-			Xt-	A/BCD/E	araw-「洗う」、 k'uw-「閉める」
	aw/aut	Xaw-	Xa-			Xaut-	A/BCD/E	haw-「買う」
	w/d	Xw-	X-			Xd-	A/BCD/E	ugaw-「拝む」、 nuw-「飲む」
	a/ad	Xa-				Xad-	ABCD/E	ka-「食べる」
	t/cch	Xt-			Xc-	Xcch-	ABC/D/E	mut-「持つ」
	s/sh	Xs-			Xsh-	Xsh-	ABCDE	pus-「干す」
	n/j	Xn-				Xj-	ABCD/E	sin-「死ぬ」
	k/s	Xk-				Xsh-	ABCD/E	yak-「焼く」、 mank-「手招きする」
	k/ch	Xk-				Xch-	ABCD/E	kik-「聞く」、 akk-「歩く」
	k/j	ik-				ij-	ABCD/E	ik-「行く」
g/j	Xg-				Xj-	ABCD/E	hug-「漕ぐ」	
II	r/t	Xr-		X-	Xr-	Xt-	ABD/C/E	war-「割る」
	ViVir/ViVit	ViVir-		Vi-	ViVir-	ViVit-	ABD/C/E	noor-「登る」
	ir/sh	Xir-		Xi-	Xir-	Xis-	ABD/C/E	nir-「煮る」
	ir/ch	Xir-		Xi-	Xir-	Xich-	ABD/C/E	pashir-「走る」
	kir/ch	Xk'ir-		Xk'u-	Xk'ir-	Xk'ich-	ABD/C/E	k'ir-「着る」
	r/cch	Xir-		Xi-	Xir-	Xicch-	ABD/C/E	ir-「入る」
	bir/pich	Xbir-		Xbi-	Xbir-	Xbich-	ABD/C/E	k'ubir-「括る」
	bur/put	Xbur-		Xbu-	Xbur-	Xbut-	ABD/C/E	habur-「被る」
	tsir/sit	Xtsir	—	—	Xtsir	Xsit-	A/C/E	utsir-「分かる」
	gir/kich	Xgir-		Xgi-	Xgir-	Xgich-	ABD/C/E	nigir-「握る」
gur/kut	Xgur-		Xgu-	Xgur-	Xgut-	ABD/C/E	mugur-「回る」	
III	or/osh	Xor-		Xo-	Xo-	Xosh-	ABCD/E	misho-「召し上がる」
	oor/oosh	oor-		o-	oo-	oosh-	ABCD/E	oo-「行く/来る」 (尊敬)
	oor/oot	oor-		o-	oo-	oot-	A/BCD/E	oo-「居る」(尊敬)
IV	V	XV-					ABCDE	uri-「降りる」
	ViVi	XViVi-		XVi-	XViVi-		ABDE/C	y'ee-「開ける」

池地方言も含め、瀬戸内町の諸方言の特徴として、音節末子音が後続子音と同器官的 (homorganic) な、いわゆる促音・撥音に限られず、調音点・調音方法の異なる様々な子音の連続が観察される。動詞の活用形の中では、子音語幹動詞に禁止接辞・条件接辞・目的接辞が後接する場合に子音連続が生じる (表5：四角内参照)。なお、語幹末が重子音もしくは子音連続の場合は、形態素境界に母音が現れる (表5：二重四角内参照) という特徴がある。表5に、池地方言の動詞の子音語幹動詞の非過去形・禁止形・条件形・目的形の語例を示す。

表5：子音語幹動詞非過去形・禁止形・条件形・目的形の語例

語幹末		意味	非過去形 「～する」	禁止形 「～するな」	条件形 「～すれば」	目的形 「～しに」
単子音	b	飛ぶ	tubjum	tu bn a	tu bb a	—
	m	飲む	numjum	nu mn a	nu mb a	nu mg a
	t	打つ	ufjum	u tn a	u tb a	u tg a
	s	干す	φufjum	φu sn a	φu sb a	φu sg a
	k	焼く	jakjum	ja kn a	ja kb a	ja gg a
	g	漕ぐ	kugjum	ku gn a	ku gb a	ku gg a
重子音 / 子音連続	mm	頼む	tammjum	tam mm na	tam mb a	tam mg a
	ŋg	握る	miŋgjum	miŋ gn a	miŋ gb a	—

4.3 敬語法

敬語法については、佐仁方言、浦方言、今里方言、芝方言、請阿室方言、与路方言を対象に調査を実施した。奄美大島方言に関して敬語表現に焦点を当てた研究が少ない。また、奄美大島方言内の尊敬表現の地域差は大きく、奄美大島方言全体および個別で起こった敬語表現の発展の詳細はまだ分かっていない。方言の敬語表現を使用する場面が減少しつつある(共通語化)ため、特に高齢層を対象とした調査・研究が急務である。以下、奄美大島内の「居る」「行く・来る」の意味に相当する敬語動詞の形式に限定して、その特徴を3点指摘する。

(1)「居る」「行く・来る」の意味に相当する敬語動詞の活用形に一部差異がある。

【同形】否定形、意志勧誘形、非過去形

【今里のみ異形】命令形

【異形】過去形、継起形

(2)「居る」の尊敬動詞から地域によって尊敬の補助動詞や尊敬接辞が生じている。

今里方言以外：尊敬の継続補助動詞

shensee=ya n'ama hon yu-di mo-t=too. [浦方言]

先生=TOP 今 本 読む-SEQ PROG.HON-NPST=SFP

「先生は今、本を読んでいらっしゃるよ。」

→今里方言：尊敬接辞

shensee=ya n'ama=raga hon yu-dimo-d=doo.

先生=TOP 今=ABL 本 読む-HON-NPST=SFP

「先生は今から本をお読みになるよ。」

(3)語彙的尊敬動詞「行く」「居る」「食べる」「眠る」及び派生尊敬動詞(非尊敬語根+-(i)shor-)のうちいずれにおいても意志勧誘形が見られる。

→浦方言：「行く」の尊敬動詞の意志勧誘形

maajin koominkwan=chi m'or-oo.

一緒に 公民館=ALL 行く.HON-勧誘

「一緒に公民館に行きましょう。」

参考文献

- ・重野裕美(2016)「北琉球奄美大島龍郷町浦方言の格標識」『広島経済大学研究論集』39(1・2)、広島経済大学経済学会、pp.81-92
- ・重野裕美(2017)「北琉球奄美与路島与路方言の格標識」『琉球の方言』41、法政大学沖縄文化研究所、pp.119-164
- ・重野裕美(2018)「北琉球奄美大島龍郷町浦方言の尊敬動詞について」『広島経済大学研究論集』41(3)、広島経済大学経済学会、pp.77-95
- ・白田理人・重野裕美(2019)「奄美大島笠利町佐仁方言の動詞・形容詞の活用」『文化庁事業報告書 平成30年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』、pp.1-33
- ・白田理人・重野裕美(2020)「瀬戸内町請島方言の動詞活用資料」『シマジマのしまくとぅば1 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究 令和元年度』、pp.8-20

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 白田理人・重野裕美	4. 巻 -
2. 論文標題 瀬戸内町請島方言の動詞活用資料	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 シマジマのしまくとぅば1 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究 令和元年	6. 最初と最後の頁 8-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/kikgengo/?p=1070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 重野裕美	4. 巻 41 (3)
2. 論文標題 北琉球奄美大島龍郷町浦方言の尊敬動詞について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島経済大学研究論集	6. 最初と最後の頁 77 - 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.18996/kenkyu2018410305	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白田理人・重野裕美	4. 巻 -
2. 論文標題 奄美大島笠利町佐仁方言の動詞・形容詞の活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/kikgengo/?p=1070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白田理人・重野裕美	4. 巻 16・17
2. 論文標題 ダイバンマヤの話 北琉球奄美大島浦方言による民話	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奄美沖縄民間文芸学	6. 最初と最後の頁 74 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 北琉球奄美大島大和村今里方言の敬語法	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 広島経済大学研究論集	6. 最初と最後の頁 155-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.18996/kenkyu2017400308	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美・白田理人	4. 巻 15
2. 論文標題 言語資料 ジョウゴの話 北琉球奄美大島浦方言による民話	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奄美沖縄 民間文芸学	6. 最初と最後の頁 1(68) - 14(55)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美・白田理人	4. 巻 42
2. 論文標題 北琉球奄美大島笠利町佐仁方言の尊敬動詞について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 25-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.15002/00021726	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美	4. 巻 39(1・2)
2. 論文標題 北琉球奄美大島龍郷町浦方言の格標識	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 広島経済大学研究論集	6. 最初と最後の頁 81-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.18996/kenkyu2016390106	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白田理人・重野裕美	4. 巻 35
2. 論文標題 北琉球奄美大島浦方言の自然談話資料 ハブ捕り話・ケンムン話	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都大学言語学研究	6. 最初と最後の頁 217-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.14989/219011	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美・白田理人	4. 巻 41
2. 論文標題 北琉球奄美与路島与路方言の格標識	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 119-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.15002/00014498	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白田理人・重野裕美	4. 巻 41
2. 論文標題 北琉球奄美請島請阿室方言の音韻スケッチ - 形態音韻論的交替を中心に -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 165-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.15002/00014499	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美	4. 巻 34(15)
2. 論文標題 列島縦断! 日本全国イチオシ方言 鹿児島県 (奄美大島)	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美	4. 巻 3
2. 論文標題 奄美語龍郷町浦方言のデンス・アスペクト・モダリティ（中間報告）	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 琉球諸語 記述文法	6. 最初と最後の頁 32-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 重野裕美・白田理人	4. 巻 38(4)
2. 論文標題 北琉球奄美方言における有生性階層-奄美大島浦方言と喜界島上嘉鉄方言・小野津方言を例に-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 広島経済大学研究論集	6. 最初と最後の頁 111-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hue/metadata/12233	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 重野裕美
2. 発表標題 北琉球奄美大島方言の格標識について 龍郷町浦方言を中心に
3. 学会等名 令和元年度 第1回研究発表会「格・情報構造（琉球諸語）」2019年6月16日 国立国語研究所プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 重野裕美
2. 発表標題 北琉球奄美大島方言における敬語表現の場面差について
3. 学会等名 沖縄言語研究センター
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白田理人・重野裕美
2. 発表標題 瀬戸内町請島方言の動詞活用資料
3. 学会等名 令和元年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」成果報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白田理人・重野裕美
2. 発表標題 奄美大島笠利町佐仁方言 動詞・形容詞の活用を中心に
3. 学会等名 平成30年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」成果報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 重野裕美・白田理人
2. 発表標題 北琉球奄美大島方言及び喜界島方言の尊敬動詞の意志勧誘形について
3. 学会等名 九州方言研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白田理人・重野裕美
2. 発表標題 北琉球奄美大島笠利町佐仁方言の動詞活用について
3. 学会等名 2017年度(40回)沖縄言語研究センター研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 重野裕美・白田理人
2. 発表標題 北琉球奄美浦方言の対格について
3. 学会等名 第12回琉球諸語記述研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 重野裕美
2. 発表標題 北琉球奄美大島諸方言の尊敬動詞について
3. 学会等名 第43回九州方言研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白田理人・重野裕美
2. 発表標題 北琉球奄美請島請阿室方言の音韻スケッチ - 分節音の解釈、分布及び交替 -
3. 学会等名 第71回言語記述研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 重野裕美・白田理人
2. 発表標題 請島請阿室方言・与路島与路方言の形態音韻論的交替 歯茎音同化・両唇音弱化を中心に
3. 学会等名 沖縄言語研究センター例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 重野裕美
2. 発表標題 北琉球奄美大島浦方言談話資料の分析結果と課題
3. 学会等名 東京外国語大学AA研「通言語的・類型論的観点からみた琉球諸語のケースマーキング」共同利用・共同研究課題研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 重野裕美
2. 発表標題 聞き書き調査と「リレー型デジタルストーリーテリング」の試み
3. 学会等名 第11回琉球諸語記述研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 重野裕美
2. 発表標題 奄美大島浦方言における名詞複数標識の多義性-純粹複数・近似複数・曖昧・例示-
3. 学会等名 フィールド言語学ワークショップ(第10回 文法研究ワークショップ)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 白田理人・重野裕美
2. 発表標題 北琉球奄美諸島阿室方言の音韻-分節音の解釈、分布及び交替-
3. 学会等名 言語記述研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 麻生玲子, 小川晋史, 重野裕美, 下地賀代子, 下地理則, クリストファー・デイビス, 當山奈那, 中川奈津子, 新永悠人, 林由華, トマ・ペラール, 又吉里美, 山田真寛	4. 発行年 2015年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 315
3. 書名 琉球のことばの書き方-琉球諸語統一表記法-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----